

## 2022年度 会員研修会のお知らせ

東海市出身で江戸時代の儒学者細井平洲。後に米沢藩主・上杉鷹山の師として、また尾張藩藩校・明倫堂の学長になった「細井平洲記念館」と「東海市指定名勝の聚楽園大仏」を尋ねます。ぜひご参加ください。



- |       |  |
|-------|--|
| ①日 時  | 2022年11月29日(火) 9:00<br>町民会館駐車場 集合・出発     |
| ②研修先  | ・東海市立平洲記念館<br>・聚楽園大仏<br>・東海市観光物産プラザ      |
| ③募集人数 | 30名(先着順)                                 |
| ④参加費  | 2000円(昼食代他)<br>・昼食・・・和食料理 懐仙(カケ)         |
| ⑤申込み  | 11月1日(火)～11月17日(木)<br>地域協働課 (Tel56-0727) |

## 2022年度 後期事業について(お知らせ)

- 日本語教室 後期 (2022/10/9～2023/2/26)
- 文化産業まつり (2022/11/13)
- 外国人防災教室 (2022/11/27)



### 法人・団体 会員紹介

- 株式会社 東郷製作所 ・ 東郷町商工会 ・ 東郷町施設サービス株式会社
- JAあいち尾東 東郷支店 ・ トヨタモビリティ東名古屋(株) 東郷春木台店
- 原田税務会計事務所 ・ 株式会社 中部理化 ・ 有限会社 大盛技建
- 豊田信用金庫 東郷支店 ・ 株式会社 サンコー ・ ウェルアート株式会社
- (株)ニッショー 日進支店 (順不同)

### 編集後記

会員みなさん、お変わりありませんか。  
早い梅雨明け、その後の猛暑日続きの毎日、そしてコロナ感染者数の急上昇で大変不安な毎日を送られたことと思います。  
中止となった事業もありましたが、実施できた事業の様子等をお知らせします。  
ご意見、ご要望をお待ちしています。

■担当 岩瀬 文枝・近藤小夜子・近藤 安恵  
杉原悠紀子・安原美恵子 (五十音順)

### 会員募集

あなたも、国際交流のイベントに参加し、いろいろな体験を楽しみ、新しい仲間作りをしませんか。随時、加入をお待ちしています。  
今年度の会費を未納の会員さんは、恐れ入りますが、年度内に納めてくださるようお願い致します。

年会費  
個人会員 1口 1,000円  
法人会員 1口 5,000円



# ふれんどしっぷ



## 異文化理解&交流事業(町委託事業)(2022/7/24) 交流のひろばに集まろう!



### 「Youは何しに東郷へ!」

TVの人気番組を模したインタビューをしました。  
ベトナム出身のアンさんをインタビュアーとして、中国・インドネシア・ミャンマー・ベトナムなどからの9名が、母国の民族衣装を着て日本語で話してくれました。  
「桜が見たかった」「冬を体験したかった」「漫画が好きで、日本語の勉強をしたかった」  
「驚いたことは、日本では車がスムーズに道路を走っている」「困ったことは、和式トイレの使い方がわからなかった」など、いろいろなお話を会場の皆様と一緒に興味深く聞きました。

### ハイドロカルチャー(土を使わない水栽培)

利点:水抜きが不要。外側から保水状態がわかる。  
手を汚さずに簡単に作成できる。



### 書の体験

まず、筆の持ち方から練習→習字紙に文字の練習→色紙に清書する。  
「人」「道」「進」「絆」の文字が好まれました。



### お菓子釣り

子ども向けの企画としましたが子どもの参加人数が少なく、大人の方が童心にかえり楽しめました。



### コロナ禍のため3年ぶりの開催でした。

東郷町でも開催日の4～5日前から1日100人余の陽性者が出て心配しましたが、消毒・検温・換気・大声を出さない・マスク着用を徹底し実施しました。  
日本語教室の外国人・日本語教室指導者・国際交流協会会員・一般参加者等で83名の方が沢山の体験をし、お土産もでき、笑顔がいっぱいあふれた交流のひろばでした。



## 魅力あふれる協会活動を目指して 一前向きにチャレンジ

東郷町国際交流協会 会長 石川 幸生

日頃より東郷町国際交流協会の活動に対し、会員の皆様をはじめ、町内在住の外国籍の皆様、町内関係者や企業の皆様には、ご支援ご協力を頂き心より感謝申し上げます。

さて、国際情勢の厳しい状況の中ですが、本協会発足以来、今年で24年を迎えます。まだまだコロナ禍にあり、各事業について慎重かつ安全・安心を守り「理解・交流・協力」の理念を大切に継承しながら、今まで以上に楽しく面白い、誰もが参加でき、参加して良かったと思える新企画を含めた魅力あふれる活動を目指したいと思います。そのためには、全町民皆様のさらなるご理解とご支援ご協力が欠かせません。

地域における協会活動が、より楽しく親しみのある身近な活動となるよう、前向きな取り組みにチャレンジしたいと思います。これからも本協会活動に、相変わらずのご理解とご支援を頂きますよう心よりお願い申し上げます。

### 2022年度 総会 (2022/5/8)

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず3年近くを経過しています。本年も総会開催にあたり、十分感染防止策を考えて、5月8日(日)に東郷町民会館2階の大会議室で総会が行われました。

56名の皆さんにご参加をいただき、議案の事業報告・決算報告・事業計画(案)・予算(案)の全てをご承認いただき可決されました。



議事終了後、以下21名の皆様の功績を讃え感謝状の贈呈をしました。

#### 【感謝状贈呈者】

相羽加代子	石川美代子	岩瀬 文枝
加藤 和子	小島 昌子	近藤 賢二
近藤小夜子	近藤千代子	近藤 直也
近藤 安恵	鈴木 照	鈴木 淑子
土井 肇	中田 栄二	中根 和子
新野 明美	半田 丈直	長谷川いづ味
平野百合子	箕浦 克巳	森岡 京子



### 「多文化共生事業の講演会」



一昨年から延期していました講演会を、岐阜薬科大学元学長の稲垣隆司氏に「スペシャルオリンピック活動と国際交流」というテーマでご講演いただきました。「誰一人取り残されない社会の実現に向けて」という副題のもと、目からウロコの話題がいっぱいでした。

世界のスペシャルオリンピック(SO)の始まりは、1962年と古く、現在、世界では、170以上の国と地域で、また国内では47都道府県で実施されています。

SOは、知的障害のある人たちにオリンピック形式のスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。

SOのプログラムに参加することで、技術の習得や友情を、家族・地域の人々や他のアスリートと分かちあうことができます。また、社会全体でバックアップできる地域と共生する社会を作っていくためには、一般の方の障害者スポーツへの関わり方が大切となります。

その様々な関わりが障害の有無を問わない社会づくりにつながっていく等々、たくさんの情報や運営の苦労話を聞くことができました。

オリンピック、パラリンピックは2021年に日本で開催され身近でしたが、こうしたスペシャルオリンピックの内容に触れ、今後是非応援していきたいと思いました。



### 日本語教室授業風景



Aクラス



Bクラス



Cクラス

### 家族のこと

#### ミャンマーからの日本語教室学習者

私の家族は11人います。おばあさん、お父さん、お母さん、兄1人、姉2人と弟4人です。今、おばあさんは81才です。お父さんは53才です。お母さんは49才です。

家族の仕事は農業です。畑は、村から歩いて1時間ぐらいかかります。仕事は、牛といっしょに土をほって、いろいろな豆をさいばいすることです。だから、本当に疲れる仕事です。

私の家がありますが、いつもは住んでいません。畑がある場所にずっと住んでいます。家には村へ用事の時と食料を買うときだけ帰ります。そのときは楽しいです。畑に友達はいません。牛と森だけが見えます。でもラジオが1個あります。ラジオで、私の好きな音楽を聴くときはとても楽しくて、疲れた体がリラックスしました。

学校に行く時、畑から学校へ直接行きます。朝、両親の手伝いが終わってから、朝ごはんを早く食べて、兄と姉といっしょに学校へ間に合うように走りました。私が中学生になると、弟3人といいしょに家から学校へ通えるようになりました。まい日、おばあさんがごはんを作ってくれます。料理はとくに決まっていません。豆とやさいでいろいろ作って食べます。肉はまつりの時しか食べられません。

学校が休みの日は、畑へ行って、仕事をできるだけ手伝います。昼休みには、弟といっしょに泳いだり、つりをしたりします。子どもの生活は手伝ったり、食べたり、遊んだりして本当に楽しいことばかりで、今はなつかしいです。

家族の生活は苦しいので、兄と姉は学校を続けることはできませんでした。中学校を卒業しただけでアルバイトをしました。そのおかげで、私は高校まで続けられました。私はいっしょけんめい勉強して高校を卒業したら、海外で働こうと決めました。

海外の給料は母国より多いので、家族の生活のためになると思いました。その時から、町へ行って働きながら日本語をいっしょけんめいに勉強しました。いろいろな問題がありましたが、やっと日本へ来ることができました。

給料から私の生活代をのこしてぜんぶ家族に送っています。両親には、苦しくて疲れる仕事はやめて、ゆっくり休んでほしいです。

今、私の家族は6人しか家に住んでいません。私は日本でお金をためて、家族のいる母国へ帰ります。母の作る料理もなつかしい…。

